

ぴかりんじゃんけんにおける偏りの有無について

青 島 司 (じぶれきさん)

Existence of the deviation in Pikarin Jang-ken

Tsukasa Aoshima (Jibureki-San)

概要：2012年2月より、東映アニメーション製作の女兒向けテレビアニメーション、「スマイルプリキュア!」が放映されている。本稿では、スマイルプリキュアの主人公キャラクターの一人、キュアピースのじゃんけん、ぴかりんじゃんけんの偏りを検証する。検証の結果、33話までのぴかりんじゃんけんの偏りは断定できなかった。

Keywords : Smile Precure!, Cure Peace, Yayoi Kise, Pikarin Jang-ken

キーワード：スマイルプリキュア!、キュアピース、黄瀬やよい、ぴかりんじゃんけん

1. はじめに

2012年2月より、テレビ朝日系列日曜日朝 08:30 から 09:00 の間、東映アニメーション製作の女兒向けテレビアニメーション、「スマイルプリキュア!」が放映されている。本作は2004年放映の「ふたりはプリキュア」より数えてプリキュアシリーズの9作目の作品となる。

本作もプリキュアシリーズのフォーマットを踏襲し、主人公格のキャラクターがマスコットキャラクターと出会い超常的な力を獲得し、伝説の戦士プリキュアに変身して敵役に立ち向かう物語である。

2012年09月現在、本作のプリキュアはキュアハッピー、キュアサニー、キュアピース、キュアマーチ、キュアビューティーの5人である。本稿では上記の5キャラクターのうち、キュアピースに焦点を当てる。

5人の主人公キャラクターが伝説の戦士プリキュアに変身する際、定型の変身シーン、いわゆる「バンク」がTV画面に流される。多少のマイナーチェンジはあるものの、プリキュアシリーズの通例ではバンクは1キャラクターにつき1パターンであった。しかし、特筆すべきことに本作のキュアピースのバンクには、3パターン用意されているカットが存在する。

「ぴかぴかぴかりん じゃんけんぽん」の決め台詞とともに、キュアピースはグー、チョキ、パーのいずれかを出す。その為、該当カットはグー、チョキ、パーの三種類用意されている。



図1. キュアピース パー



図2. キュアピース グー



図3. キュアピース チョキ

TVと視聴者がジャンケンをする趣向は、アニメではサザエさん、古くは実写のポンキッキのジャカジャカジャンケンが存在し、視聴者にとって親しみやすい趣向であろう。

また、「じゃんけんポンで日曜日(<http://cure.shiroro.com/>)」など、キュアピースのジャンケンとサザエさんのジャンケンの勝敗を一覧するサイトが存在したり、日本大手の動画サイトに、スクリプトを使用してキュアピースとジャンケンが出来る動画が投稿されたりと、アニメマニア層にはある程度のインパクトを与えたと思われる。

プリキュアのメイン視聴者である女兒及びファミリー層に対して、キュアピースのジャンケンがどれだけの訴求力を持っているかは未調査であるが、女兒及びファミリー層にとって魅力的な仕掛けであることを願うばかりである。

本稿では、2012年09月までに放映されたスマイルプリキュア!のキュアピースのジャンケンのデータより、キュアピースのジャンケンの偏りの有無を検証する。また、本稿では、第4話のキュアピースの台詞に則り、キュアピースのジャンケンに「ぴかりんじゃんけん」と呼称する。

2. ジャンケンについて

「ジャンケン」が何を指すのか定義は難しいが、本稿で扱うぴかりんじゃんけんに酷似した形態のジャンケン、すなわち、「パーはグーに勝ち、グーはチョキに勝ち、チョキはパーに勝つ」という「三すくみ」の形態の遊戯は、日本においては明治時代前半頃に定着したとリンハルト(1998)⁽¹⁾は述べている。

そして、「三すくみ」の遊戯の歴史は明治時代より古く、赤穂(2000)⁽²⁾によれば江戸時代には熊本の球摩拳、他地域においては虫拳、虎拳、狐拳などが三すくみの遊戯として存在した。明治時代に定着したとされるジャンケンのルーツは、これら三すくみ型の拳遊びであろう。

他にもナンコ、長崎拳、津軽拳、庄屋拳など、三すくみ型だけでなく「数拳」と呼ばれる部類の拳遊びも含め、数多くの拳遊びが過去に存在し、一部は保存会の活動により現在まで現存している。

これらの拳遊びについての興味は尽きないが、本稿で留意すべきはこれらの拳遊びのルーツの周辺に「お座敷芸」「酒宴の余興」に近いものが存在する点である。これらについて述べるのが、年少者をメイン視聴者とするプリキュアを取り上げている本稿に適しているか疑問であるため、本稿では拳遊びについてこれ以上記述しない。

一方、ぴかりんじゃんけんの掛け声、「ぴかぴかぴかりん じゃんけんぽん」の「じゃんけんぽん」について考える。

赤穂(2000)によれば、日本における調査に限っても、ジャンケンの掛け声には地域によって多数のバリエーションが存在するという。

「ジャンケンション」(北海道札幌市)、「シュッシュッシュッ」(青森県津軽市)、「イシケンギ」(宮城県仙台市)、「チッチッチッ」(千葉県柏市)、「チッケツパ」(神奈川県箱根市)、「チッチッポイ」(長野県長野市)、「ジャイケン インジャン」(大阪府大阪市)、「グーチョキパ」(鳥取県鳥取市)、「エイ チュノ ホイ」(徳島県徳島市)、「ジャイケンショ」(福岡県福岡市)、と、枚挙に暇がない。

じゃんけんの掛け声に各地でのバリエーションが存在するという事は、それだけジャンケンが広く人口に膾炙しているという事、また、日本各地の多様性の現れであろう。

ウイトカウアーは『アレゴリーとシンボル』(1991)⁽³⁾において、「およそ一世紀にわたって、民俗学者は相反する二つの理論を携えて仕事をしてきた。技術、観念、構想、芸術形態は伝播するとする説と、それに対し、文化は世界各地で個々に「自然発生」したとする説である。」「伝播主義を擁護する側と独立的な帰一論側はいまだ四つに組み、お互い一步も譲らずにいる。」と述べている。

同様に、現在の日本各地、また世界各地におけるジャンケンの多様性についても、伝播によるものなのか、あるいは各地で独立に自然発生したものか、伝播と独立発生の混淆なのか、容易に結論できないものであろう。さらなる論考と調査が待たれる。

3. 検証

ぴかりんじゃんけんの偏りを検定するためにピアソンのカイ二乗検定

$$\chi^2 = \sum_{j=1}^k \frac{(O_j - E_j)^2}{E_j} \quad \text{式(1)}$$

を用いる。対象データは以下を用いる。

03話	チョキ
04話	パー
05話	グー
06話	チョキ
07話	チョキ
08話	グー
09話	チョキ
10話	パー
11話	グー
12話	パー
13話	チョキ
14話	グー
15話	パー
16話	グー
17話	パー
18話	チョキ
19話	チョキ
20話	パー
21話	グー
22話	パー
23話	チョキ
24話	パー
25話	チョキ
26話	パー
27話	パー
28話	グー
29話	チョキ
30話	グー
31話	パー
32話	バンクなし
33話	グー

表1. ぴかりんじゃんけんの一覧

著者は11話、32話が未視聴、3話、4話は視聴したがぴかりんじゃんけんをメモしていない。また、29話は手元のメモがインターネットで見聞した内容と異なっていた。よって上記の回は「じゃんけんポンで日曜日」(4)で取得した情報で補完した。

TV放映合計30回分のぴかりんじゃんけんを検定対象とし、「映画プリキュアオールスターズ NewStage みらいのともだち」でのジャンケンを含めない。30回分のデータの為、グー、チョキ、パーそれぞれの期待値を10とする。対象がグー、チョキ、パーの三種のため、自由度は2である。

4. 検証結果

チョキ 10, パー 11, グー 9 より、 $\chi^2=0.2$, $df=2$ 。 $p<0.01$ として有意な差は認められなかった。よって、33話までのぴかりんじゃんけんに偏りがあると断定できなかった。

5. さいごに

検証の結果、33話までのぴかりんじゃんけんに偏りがあると断定できなかった。カイ二乗検定で検証されるのは一様性の為、今後は、ぴかりんじゃんけんの無規則性・独立性を検証する予定である。

本稿を書くきっかけとなった、スマイルプリキュア!に感謝いたします。また、データを補完させていただいた「じゃんけんポンで日曜日」様に謝意を申し上げます。また、本稿をまとめるにあたり、査読して頂いた知人のN氏、M氏に感謝いたします。

参考文献

- 1) セップ・リンハルト 「拳の文化史」 (1998)
- 2) 赤穂敵也 「再考 じゃんけんぽん」 (2000)
- 3) ルドルフ・ウイトカウアー 「アレゴリーとシンボル」 (1991)
- 4) じゃんけんポンで日曜日 (<http://cure.shiroro.com/>)